

令和 5 年度第 3 回大垣市障がい者の暮らしを支える協議会議事要旨

令和 5 年 11 月 24 日(金)

13 : 30 ~ 15 : 00

大垣市役所 8 階 大会議室

出席者 : 20 名 欠席者 : 7 名

1. 健康福祉部長あいさつ

2. 第 2 期大垣市障がい者総合支援プラン（素案）について （事務局より説明）

- ・ 計画策定の趣旨、基本理念、計画の概要、成果目標・活動指標等について

【質疑・意見】

- ・ 就労継続支援 A 型事業における一般就労への移行者数の成果目標において、実績に基づき調整として令和 8 年度末の目標数値を 10 人としている理由はなにか。
 - 国が示す目標値は 11 人であるが、現計画の 3 年間で数値が伸びていないことを考慮し、調整して 10 人とした。
- ・ 「障害福祉サービス」という文言について、「害」という字が漢字表記のところとひらがな表記のところが散見されるので統一したほうが良い。
 - 原則、「障がい者」の「がい」はひらがな表記とし、国が定める法律上に基づくものや条例に基づくもの、医療用語等の専門用語は漢字で表記することで統一している。指摘いただいた部分については修正するとともに、他も含めて一度精査させていただきたい。
- ・ 新規施策「障がい特性に応じた災害時支援の実施」の「障がい特性」という言葉はどのような意味合いか。
 - 在宅の重度障がい児者へ非常用電源装置の購入助成や災害時支援用バンダナの配布などを行う施策であるが、障がいのある方の特性は様々あり、特に災害時・緊急時の支援において幅広く対応するため、「障がい特性に応じた」という表記にした。

- ・ 児童発達支援センターの設置について、設置ではなく検討に変更となった理由について教えてほしい。また、3年後の計画見直しのタイミングで設置について議論される可能性はあるのか。

→ ひまわり学園が来年度より新施設となり、児童発達支援センターと同等の機能を持つと見込んでいるため、今後の運用状況をみながらセンター化していくかどうかを検討していきたい。障害児福祉計画については3年毎に見直しをすることになっているため、センター設置についての検討の中で協議していくことになる。
- ・ 施策目標1「自立した暮らしの支援」の施策の方向4「保健・医療・福祉の連携による支援の充実」について、療育や教育の分野もこの中の連携に含まれているという解釈でよろしいか。

→ いろいろな分野の方と連携する協議の場を設けて連携していきたいと考えている。
- ・ 医療的ケア児の支援について、次期計画の中で進めていくということだが、保育園・小中学校・高校における医療的ケア児のための看護師の配置について、現在の進捗状況を聞きたい。

→ 小学校の方は市社会福祉協議会が運営する訪問看護ステーションから、市教育委員会との契約のもとで看護師2人配置している。
- ・ ひまわり学園に通ってみえる医療的ケアが必要なお子さんが、民間保育園で看護師が配置されたということで、短時間ではあるが保育園に通い始めたということを聞いている。
- ・ 障がい児支援のサービス見込量について、どのサービスの数値を見ても右肩上がりとなっており、ニーズがどんどん増えてきていることを感じた。その一方で、この調子でサービス見込量を増やしていくことが技術的に可能かどうかということと、本当にこれだけ必要なのかという疑問もある。適正な見込量、適正な支援を見極めてほしい。

- ・ 災害時支援用バンダナについて、実際に避難所でバンダナを身に付けていた場合、他の人がどう支援してよいかわからないことが課題としてあるため、障がい理解する場を設けてほしい。また、障がい者として自分たちのことを発信したり、周知活動を積極的に行っていきたい。
- ・ 災害時支援用バンダナは、身体障がい者以外にも、知的障がい、精神障がい者にも対応しているのか。
 - 基本的には身体障がい者を想定しているが、「障がいがあります」という目印も表記されているため。知的障がい、精神障がいのある方も利用していただくことは可能である。
- ・ 用語解説ページについて、「特別支援学校」のところが「特別支援教育を受ける学校で・・・」という説明となっているが、特別支援教育は、全ての学校で行っているため、誤解を生むのではないかと思う。他に、「インクルーシブ教育」についても、「可能な限り通常の学級で・・・」という説明となっているが、あまりこういった表現は見たことがないので、出典元を記載するなどしたほうが良いと思う。
 - 指摘いただいた部分について再度確認し、どのような表記がよいか検討させていただきたい。
- ・ 本計画の基本理念に「障がい者にやさしいまち」とあるが、今後の見込数値を見た時に、この数値を達成した場合、大垣市が障がいのある方にとって「やさしいまち」といえるのかどうか、非常にわかりにくい部分がある。この数字が正しいのか、類似都市と比較して進んでいるのか、過年度と比較してどうなのか、そのあたりの全体的なところを教えてほしい。
 - 例えば、障がい福祉の分野でニーズがあるのに施設利用を減らすことを目標値にしているものがあったり、果たしてこれが障がいのある方が求めていることなのかという視点においては非常に難しい課題であると認識している。また、福祉の施策や事業は数字だけではない部分もある。どうニーズを捉えて、どう実行していくかというところを次の計画の中で検討していきたい。